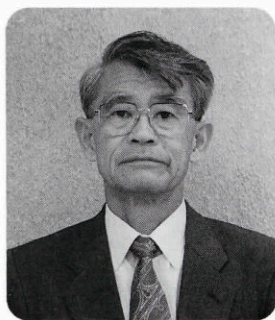


くじらと地域の人々と

文化と歴史を伝承 愛される資料館に

くじら資料館々長 野上弘己さん



通は鯨組を中心とした漁業により、精神的なつながりを得て栄えてきた土地柄です。くじらに関する資料を整備し、展示することが第一義だと思いますが、捕鯨という殺傷用具中心に片寄ることなく、

通は鯨組を中心とした漁業により、精神的なつながりを得て栄えてきた土地柄です。くじらに関する資料を整備し、展示することが第一義だと思いますが、捕鯨という殺傷用具中心に片寄ることなく、



後根亜希子さん
通中3年(通9区)

鯨漁への興味が
わいてきた

通は、昔鯨漁がさかんで鯨

墓や鯨唄などは、今もお伝統として残っています。しかし私達は、鯨漁の様子や、その時使った道具などに関することはまったく知りません。また、そういうことを知る機会も、まったくといっていいほどありませんでした。11月2日くじら資料館が漁協センター隣にオープンしました。まだ入ったことはありませんが、その資料館には、数多く展示してあり、鯨漁の様子もくわしく説明してあるそうです。

この資料館ができて、鯨唄に対していろいろと興味が出てきました。

生まれ育った通がより身近になったような気持です。必ず見学に行きます。

生活に密着した漁具や、昔の日用品の展示も心がけて、今一度漁業を通して通の祖先を学び、生活の歴史をたどることによって、郷土愛が培われ、またそれが地域の活性化に結びついていければと思っています。

「鯨唄」のメンバーにとつて、くじら資料館の完成は、このうえない喜びです。

資料館を拠点に「鯨唄」がより多くの人に知られ、唄い継がれていくことを願っています。

ここで、会の紹介とともに、後継者となる若者へメッセージを送ります。

会員は15名、昭和48年既存の保存会に対抗して、鯨唄愛好会を結成、前保存会の自然消滅により保存会を継ぎ現在に至っています。

会員の職業は多種多彩で、しかも40代から50代の働き盛りが中心なので、練習・発表の場でも、人数をそろえることは大変なことです。が、会長・副会長の仁徳で、なんとか大過なく運営しています。



くじら資料館前で鯨唄の披露



鯨唄と資料館

あとは後継者育成

通鯨唄保存会 早川義勝さん(通二区)



しかし、なんといっても民芸の保存会につきものの、後継者不足は例外ではありません。

幸いにして、地域の中学校・小学校の先生方の努力と指導で、児童・生徒が「鯨唄」の一部ではありますが、唄うことができます。近い将来の戦力になってくれるものと思っています。

私達の目的・義務は「鯨唄」を後世に伝承することです。私達の気持ちを手助けしてくれる若者を求めています。